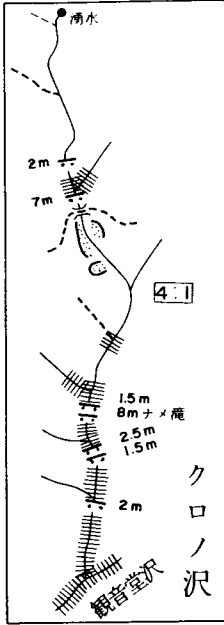


レ場が出てくる。こんな所が何で崩れているんだろうと考えながら近づくと、何と林道工事をしているではないか。押し出された土砂で沢が埋まり、「ズボ」とぬかる。ヒザから下はもうドロだらけである。

いったん林道に上がり、再び沢に戻って昼食。もう水量もずいぶん少ない。

再び歩き始める。すぐに七びの滝。左を直登。腰なわをだして後続の二人を確保。上はナメ。

小滝を越えると沢が逆S字状に曲がり、しばらくして二俣となる。左



### クロノ沢

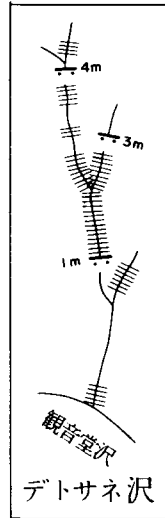
カイトキ沢を下降して観音堂沢の本流に下る。ワラジをつけ、ユノムラ沢に出合まで進む。途中、至る所でイワナの姿を見た。それも二〇センチクラスである。今は禁漁期間であり、

イワナの方でも安心して姿を見せてくれるのだろうか。ユノムラ沢に入ると、すぐに四びの滝があり、右岸を直登。フリクシヨンをきかせて登る。このあとしばらくナメが続く。観音堂沢の流域は、全体にナメが多いのが特徴のようである。

はカレ沢。右に入るが、すぐにカレてしまう。左岸にある湧水がこの沢の源のようだ。これで通行終了。下降に移る。(記)

「タイム」 出合(一〇:二五) ↓林道

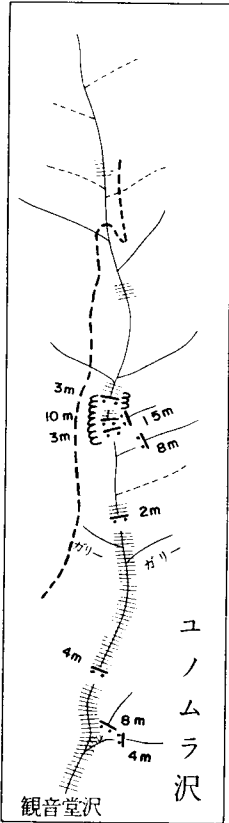
(一一:三〇) ~ (一一:五〇) ↓終了



(一二:二五)

## ユノムラ沢

一九八二年一月二日



平坦になって水量も少なくなってきた。ここで遡行を打ち切る。

(記)

「タイム」 出合(一〇::一五) ↓ 終了

(一一::二〇)

小滝を越えてゆくと、左岸よりカレ沢が入る。上に八びの滝が見えている。ガレ場が出てくると、本流の方にも滝が出てくる。まず、三びの滝があり、その上で左岸から一五びの滝をつけた小沢が入る。そして一〇びの滝。右岸を直登する。その上の三びは、何なくパス。ここがこの沢の核心部だ。

沢が平凡になった。しばらく進むと、跡跡が沢を横切っている。ここでマタタビを探る。秋の沢登りには、こういった楽しみもある。

カレ沢が四つ次々と合流し、沢が

## クゾハナ沢

一九八三年一〇月一五日

観音堂沢ぞいの道をクゾハナ沢の橋の手前まで歩き入渓する。出合からヤブのおおいかぶさる沢で、小滝、

それも一びほどのがあるだけで、大きな支沢もなく、ヤブをかきわけながらの遡行となった。水のなくなっ



クゾハナ沢